



一括インストールの実行

この章では、複数のデスクトップに一括インストールする方法について説明します。ここで説明する内容は次のとおりです。

- [インストールの前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Secure Email Encryption Plug-in の一括インストールツール \(2 ページ\)](#)
- [インストールの実行 \(8 ページ\)](#)
- [カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用 \(20 ページ\)](#)

インストールの前提条件

Cisco Secure Email Encryption Plug-in アプリケーションをインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- Java Runtime Environment 1.8 または Open Java Runtime Environment 11
- Microsoft .NET Framework 4.5.1
- Microsoft Office Primary Interop Assemblies

これらの項目がインストールされていない場合は、前提条件のリストに含まれるすべてのソフトウェアをインストールすることを求めるプロンプトがプラグインのインストーラに表示されます。

Java のインストールまたは更新に関する特記事項

Java (Oracle または Open JRE) は手動で更新しないことをお勧めします。Java を手動で更新する必要がある場合は、Open JRE を Eclipse Adoptium にアップグレードする際に、次の点に十分注意してください。

- インストール時に、**Set JAVA_HOME** 変数と **JavaSoft** レジストリキーに対して [機能全体がローカルハードディスクにインストールされます (Entire feature will be installed on local hard drive)] を選択します。

コマンドラインを使用して Open JRE を更新する場合は、次のコマンドを使用します。

```
msiexec /i OpenJDK11U-jre_x64_windows_hotspot_11.0.14_9.msi INSTALLLEVEL=3 /quiet
```

Eclipse Temurin JRE をすでにインストールしている場合は、いったんアンインストールしてから、Eclipse Temurin JRE がバンドルされている Cisco Secure Email Encryption Plugin 1.2.1-192 をインストールする必要があります。

Cisco Secure Email Encryption Plug-in の一括インストールツール

Cisco Secure Email Encryption Plug-in の一括インストールでは、組織内のユーザーが使用できるよう Cisco Secure Email Encryption Plug-in の配布パッケージを作成できます。

配布パッケージを保存するサーバーは、サーバー接続の手順でローカルマシンかリモートマシンかを選択できます。

また、一般オプションとアカウントオプションを編集してデフォルト設定を変更できます。インストールのさまざまな側面を変更するさまざまなコンフィギュレーションファイルを使用することもできます。たとえば、さまざまなパラメータ値をカスタマイズして、デフォルトのオプションを部分的に変更できます。また、特定のドメインのユーザのみを対象に構成を事前設定し、ユーザインターフェイスをローカライズしたり、ボタンの名前をカスタマイズしたりできます。

カスタマイズして準備の整った `CommonComponentsConfig.xml` や `config_{n}.xml` ファイルをアップロードできます。

最後のステップでは、一括インストールの実行に必要なすべてのファイルが格納されている共有フォルダのパスと、カスタマイズされたスクリプトを取得します。このスクリプトは、コピーして SCCM 管理ツールで再利用します。

一括インストールによって変更されるオプション

Cisco Secure Email Encryption Plug-in の一括インストールでは、インストールプロセスで使用される次のオプションが変更されます。

- 言語、ロギング、シスコへのデータ送信、更新チェックなどの一般的なオプション。
- アカウント オプション（指定ドメインのユーザー用に事前定義された構成）。

一括インストール ツールの実行

[Start] メニューまたは [Program Files] フォルダのいずれかから Cisco Secure Email Reporting Plug-In 一括インストールを実行します。

[Start] メニューから実行する場合：

- [Start] メニューボタンをクリックし、[Cisco Email Encryption Plug-in] > [Cisco Email Encryption Plug-in Mass Installation] に移動します。

または

[Program Files] フォルダから実行する場合：

- Cisco Secure Email Encryption Plug-in がインストールされているフォルダ（通常は **C:\Program Files (x86)\Cisco\Cisco Email Encryption Plug-in**）に移動し、*Cisco.EmailSecurity.MassInstall.exe* ファイルをダブルクリックします。

一括インストールパッケージとスクリプトの準備

手順は次のとおりです。

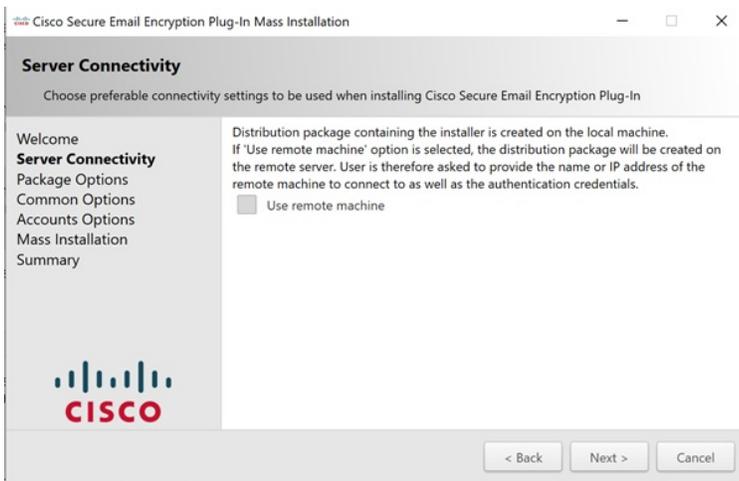
手順

ステップ1 一括インストールツールを実行します。

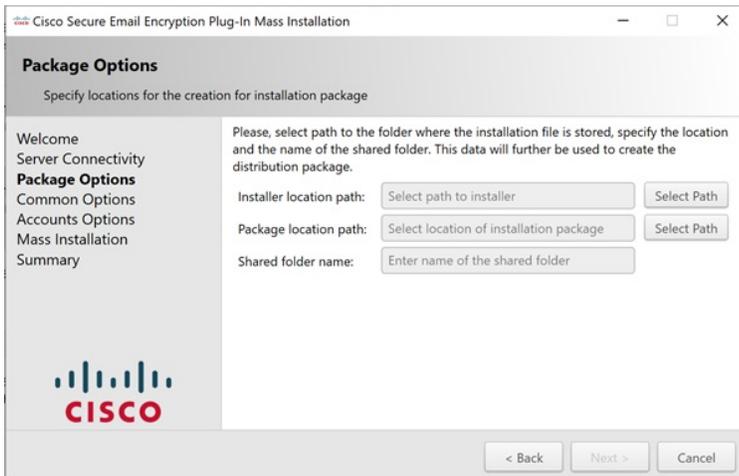
ステップ2 [ようこそ (Welcome)] ウィンドウで、[次へ (Next)] をクリックします。



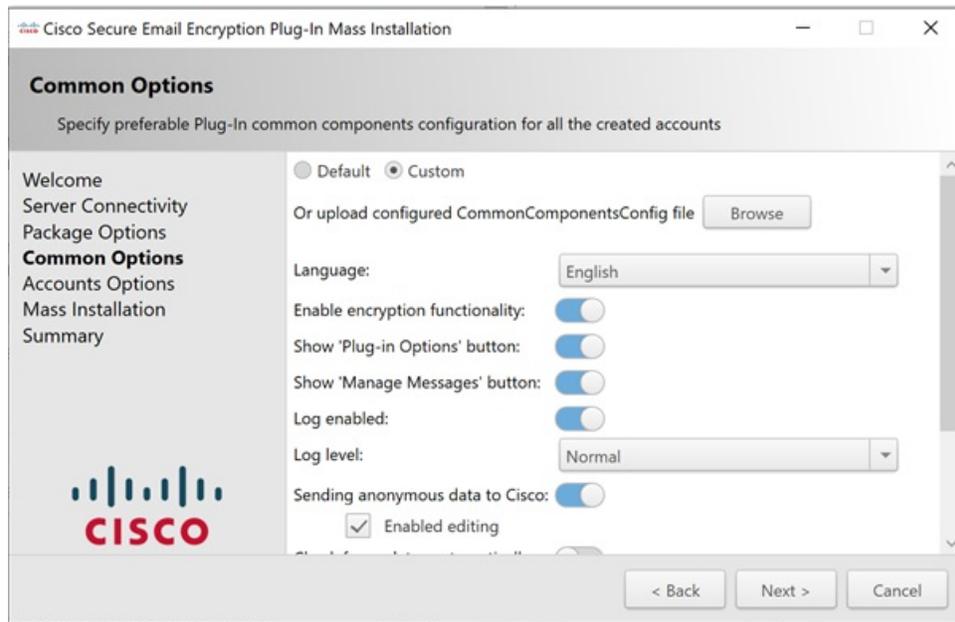
ステップ3 [サーバー接続 (Server Connectivity)] ウィンドウで、使用する接続を選択します。ローカルマシンまたはリモートマシンを使用できます。リモートマシンを選択した場合は、[マシン名またはIPアドレス、ユーザ名 (Machine name or IP address, Username)] フィールドと[パスワード (Password)] フィールドに入力して[次へ (Next)] をクリックします。



ステップ 4 [パッケージオプション (Package Options)] ウィンドウでインストールパッケージの作成先を指定して [次へ (Next)] をクリックします。

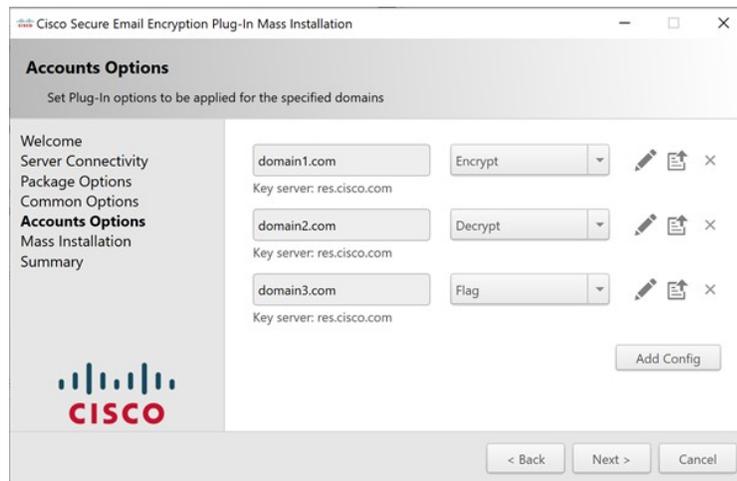


ステップ 5 [基本オプション (Common Options)] ウィンドウで、設定するプラグイン共通コンポーネントの構成を作成済みのすべてのアカウントに指定し、[次へ (Next)] をクリックします。

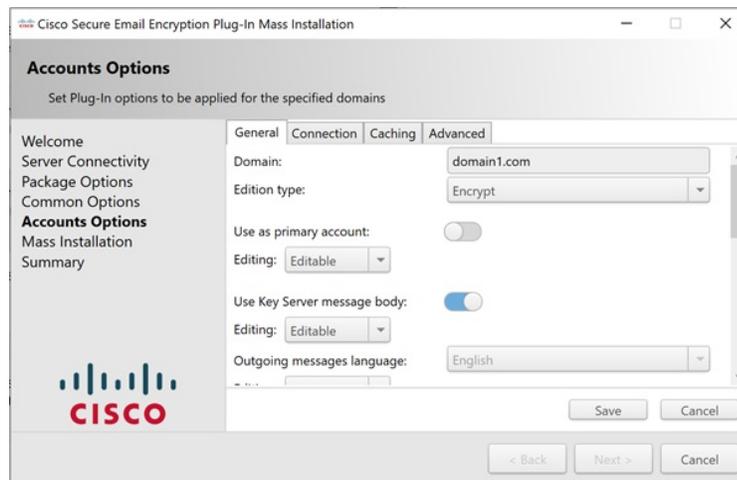


ステップ 6 [アカウントオプション (Account Options)]ウィンドウで、キーサーバーに管理者クレデンシャルを使用してログインし、有効な構成ファイルを受信して署名する必要があります。次に、指定したドメインに適用するプラグインオプションを設定して[次へ (Next)]をクリックします。

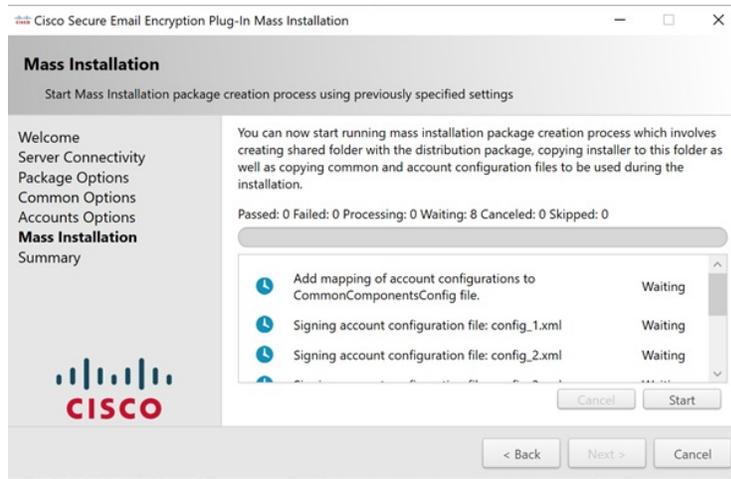




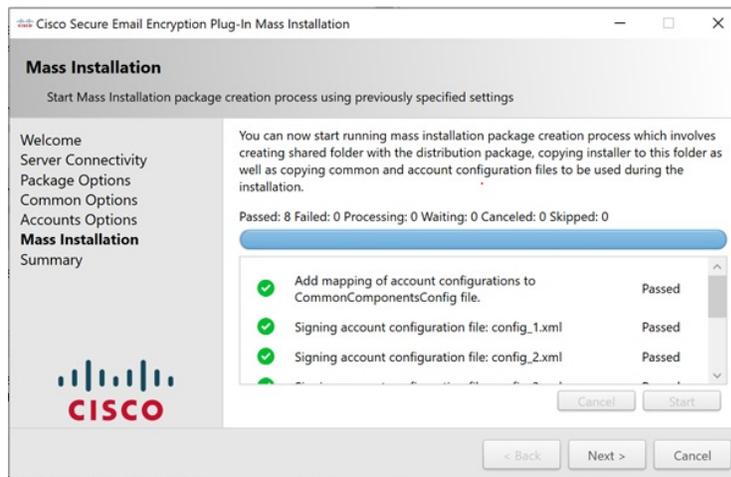
ステップ 7 [アカウントオプション (Account Options)] ウィンドウで [編集 (Edit)] アイコンをクリックしてプラグインオプションを設定します。[保存 (Save)] をクリックし、次に [次へ (Next)] をクリックします。



ステップ 8 [一括インストール (Mass Installation)] ウィンドウで [開始 (Start)] をクリックし、一括インストールのプロセスを開始します。



ステップ 9 一括インストールの処理が完了するまで待ち、[次へ (Next)] をクリックします。

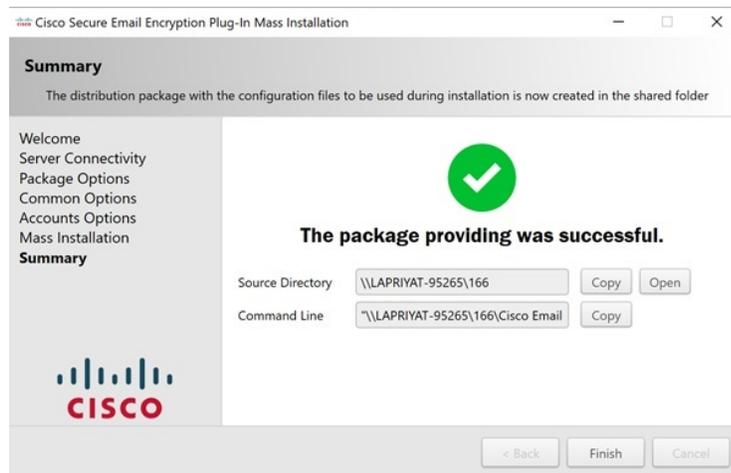


ステップ 10 [サマリー (Summary)] ウィンドウで、パッケージの格納場所へのパスと一括インストールスクリプトを取得できます。

配布パッケージとインストール時に使用するコンフィギュレーションファイルが共有のフォルダに作成されました。パスをこのフォルダにコピーするか、[オープン (OPEN)] をクリックしてフォルダの内容を表示できます。

指定したコマンドをコマンドラインで実行すると、SCCM 管理ツールで事前定義済みの設定を使用して Cisco Secure Email Encryption Plug-in を組織内のリモートマシンにインストールできます。SCCM 管理ツールの操作方法については、[Cisco Secure Email Encryption Plug-in の一括インストールツール \(2 ページ\)](#) をご覧ください。

SCCM ツールで再利用できるようこのスクリプトをコピーしたら、[終了 (Finish)] をクリックします。



- (注) パッケージと共有フォルダを作成したら、プロパティを確認してこのフォルダの [共有権限 (Share Permissions)] を確認します。権限は [全員 (Everyone)] に設定する必要があります。それ以外の場合は、手動で設定してください。フォルダを他のユーザーと共有する手順は、オペレーティングシステムによって異なる場合があります。

インストールの実行

インストールを実行するには、次の手順に従って、ネットワーク共有フォルダと配布パッケージを作成し、New Package Wizard と New Program Wizard を完了させます。

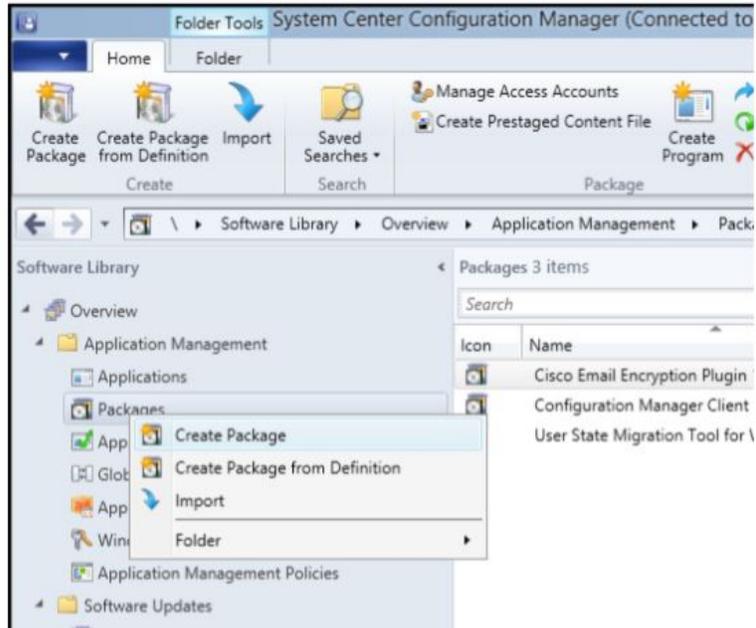
インストールを実行する手順：

手順

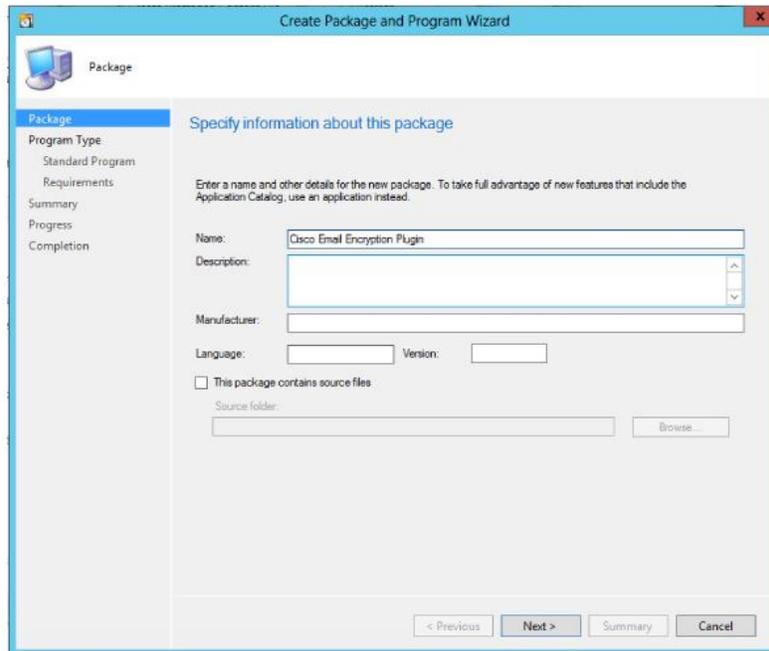
- ステップ 1** インストールパッケージをダウンロードし、チェックサムを確認します。
- 次の URL で Quick Hash GUI と SHA512 ハッシュアルゴリズムを使用して、インストールパッケージ用のチェックサムを生成します。 <https://sourceforge.net/projects/quickhash/>
 - 生成されたチェックサムが次に一致することを確認します。
E858C451B9E638DD475BEEC79E53BEEA24DEA2827EEEE786921BD0
6A2D540A3FA963EB72F9A8ECC4DBD7DBC4BF9C7B8E7448208E450 808E1693E1658C758C8E
- ステップ 2** インストールパッケージを含むネットワーク共有フォルダを作成し、ユーザーに対して共有フォルダへのアクセス権限を付与します。
- (注) dropbox、ネットワークドライブ、または共有システムフォルダからインストールを実行することはできません。

ステップ3 **System Center Configuration Manager (SCCM)** 管理ツールを開きます。

ステップ4 左側のペインで[Application Management]を展開し、[Packages]を右クリックして[Create Package]をクリックします。

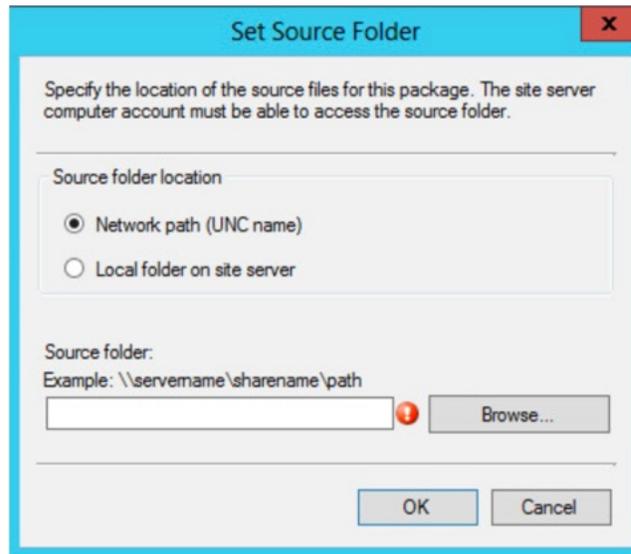


[Create Package and Program Wizard] ウィンドウが表示されます。

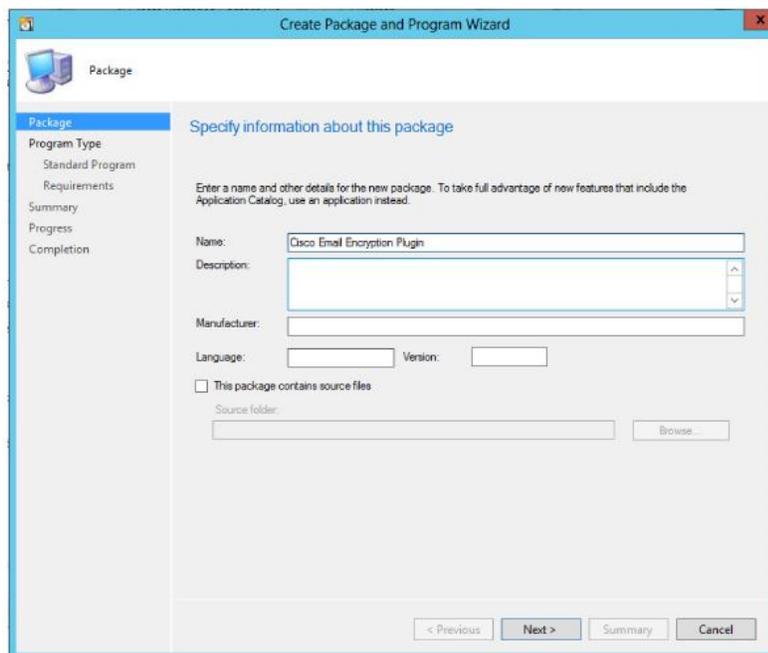


ステップ5 [Name] ボックスに、パッケージの名前を入力します。たとえば、「Cisco Email Encryption Plug-in」と入力します。

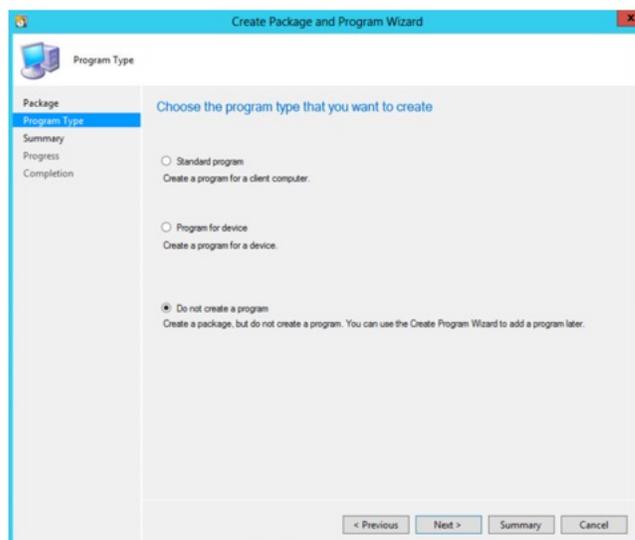
- ステップ6 [This package contains source files] を選択し、[Browse] をクリックします。
- ステップ7 表示された [Set Source Folder] ポップアップで [Network path (UNC name)] を選択します。



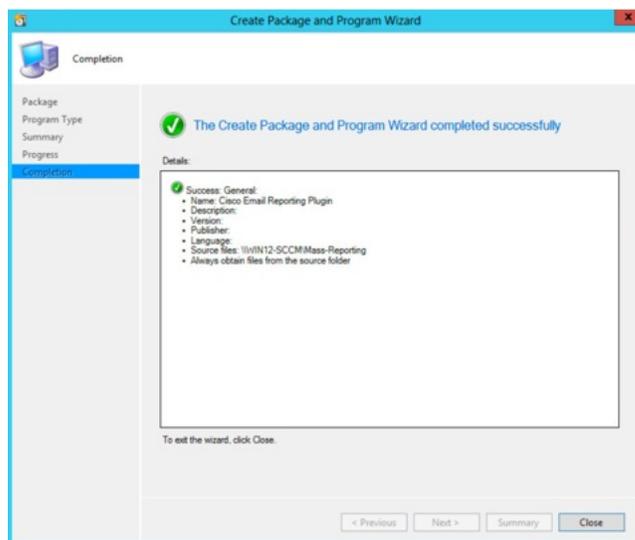
- ステップ8 [Source] フォルダにステップ2で作成したネットワークソースディレクトリを入力し、[OK] をクリックします。



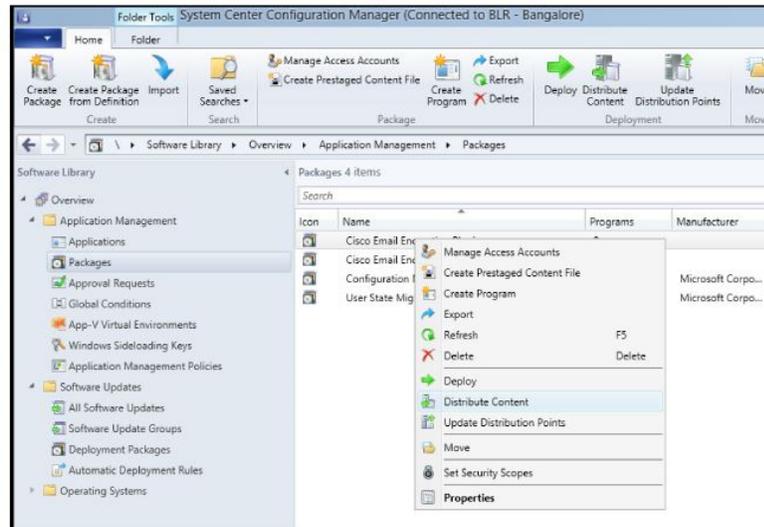
- ステップ9 [Next] をクリックします。
- ステップ10 [Do Not Create a Program] を選択し、[Next] をクリックします。



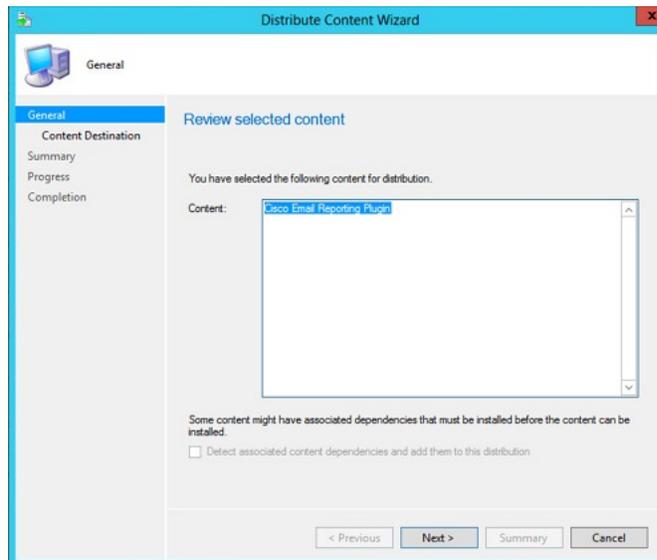
ステップ 11 [Next] をクリックし、[Create Package and Program Wizard] が正常に完了したら [Close] をクリックします。



ステップ 12 [System Center Configuration] で、作成したパッケージを右クリックし、[Distribute Content] をクリックします。

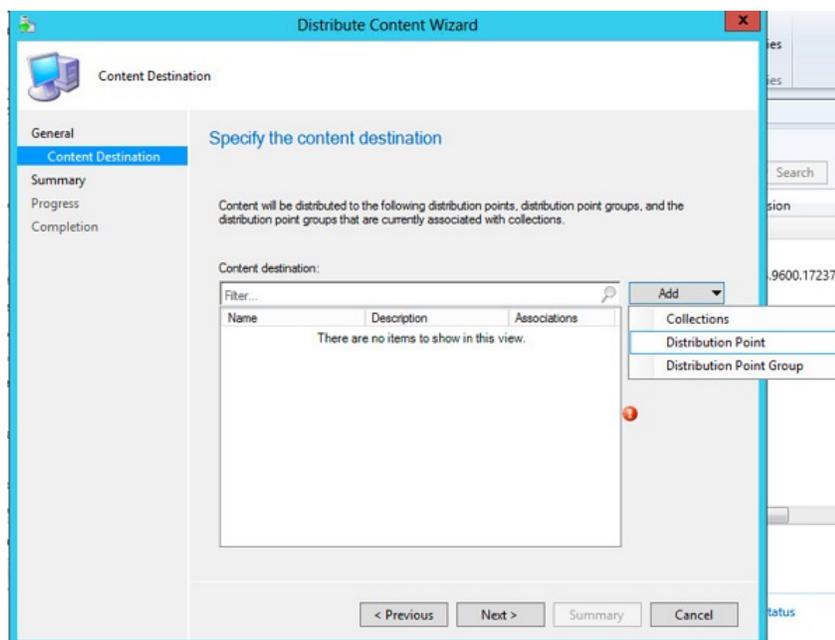


[Distribute Content Wizard] ウィンドウが表示されます。

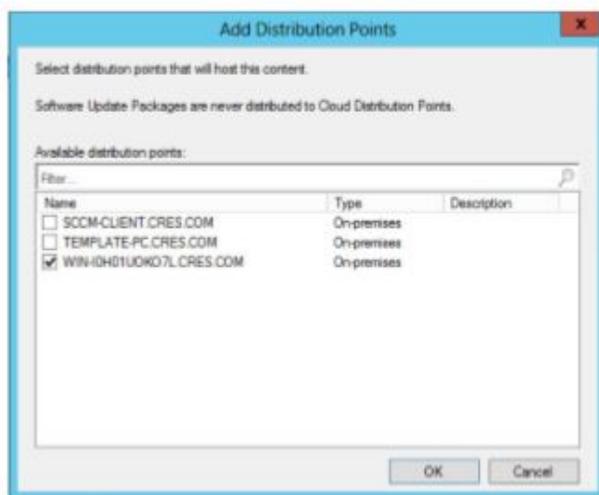


ステップ 13 [Next] をクリックします。

ステップ 14 [Content destination] 画面で [Add] > [Distribution Point] をクリックします。

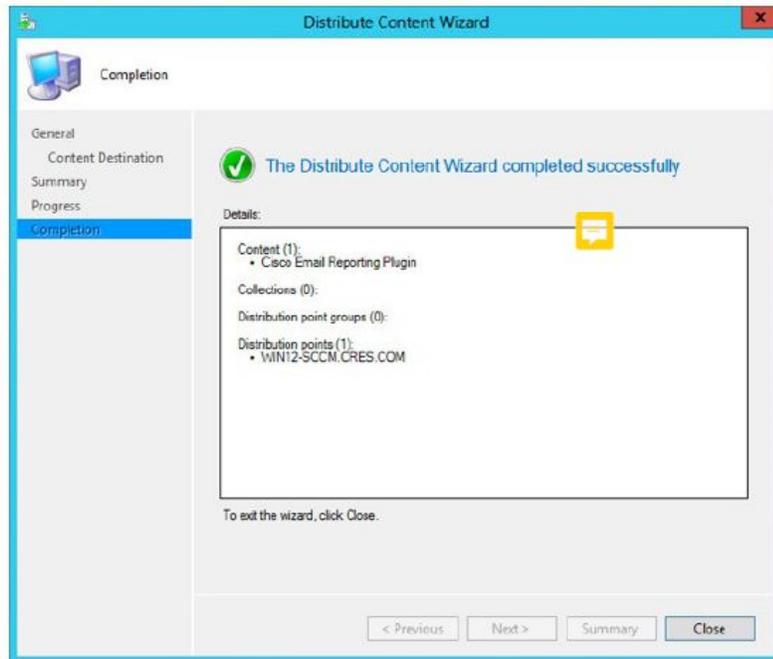


ステップ 15 表示された [Add Distribution Point] ポップアップで、必要な項目を選択し、[OK] をクリックします。

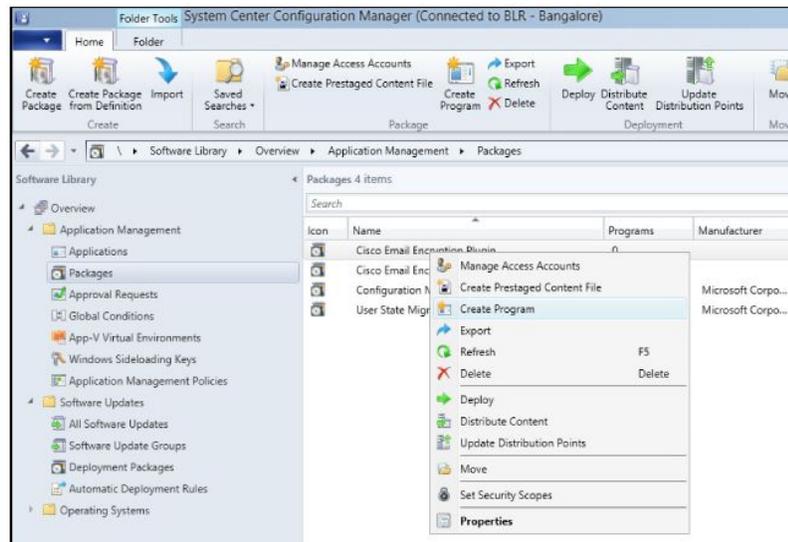


ステップ 16 [Next] をクリックします。

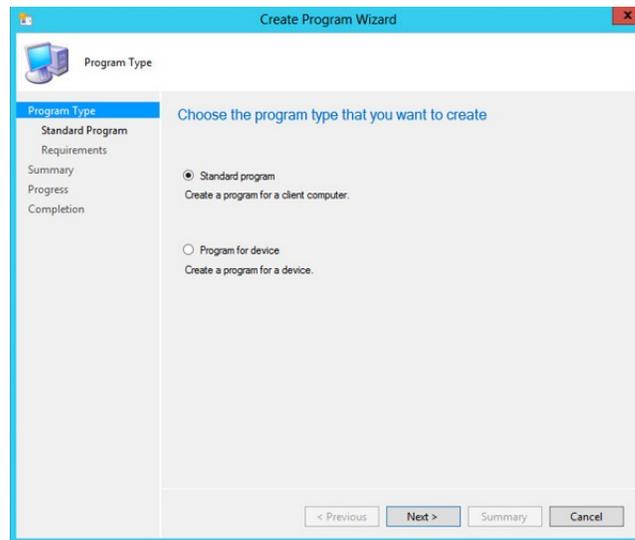
ステップ 17 [Next] をクリックし、[Distribute Content Wizard] が正常に完了したら [Close] をクリックします。



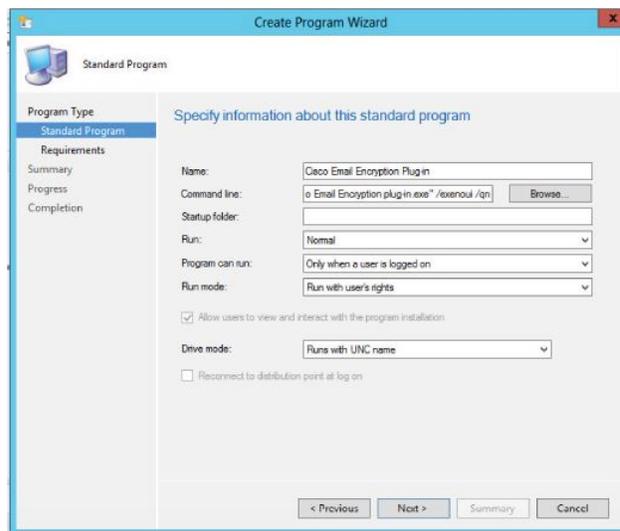
ステップ 18 [System Center Configuration] で、作成したパッケージを右クリックし、[Create Program] をクリックします。



[Create Package Wizard] ウィンドウが表示されます。



ステップ 19 [Standard Program] を選択して、[Next] をクリックします。

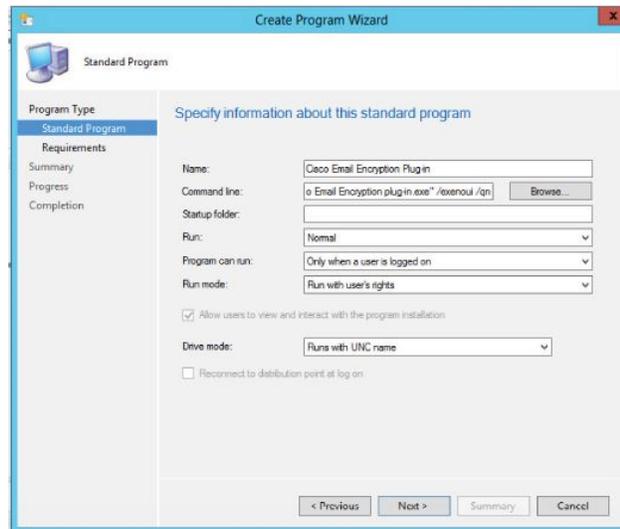


ステップ 20 [Command line] ボックスに “Cisco Email Reporting Plug-in.exe” /exenoui /qn と入力します。

(注) カスタマイズしたコンフィギュレーションファイルを使用する場合は、このステップで特殊キーを追加して、インストールでカスタムファイルを使用できるようにする必要があります。シンタックス *Cisco Email Encryption Plug-in.exe* /exenoui /qn *UseCustomConfig*=“\\sc2007\Shared\config”を使用して特殊なキーをコマンドラインから追加できます (= 記号の後にカスタム コンフィギュレーションファイルの場所を指定)。

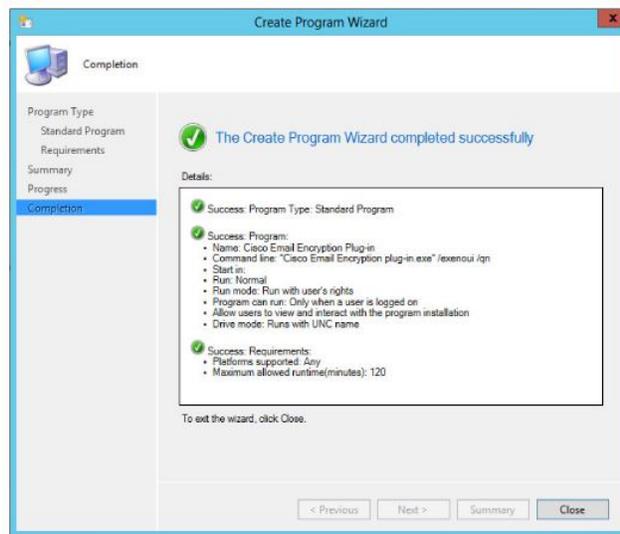
コンフィギュレーション ファイルの詳細については、[カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用 \(20 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 21 [Next] をクリックします。

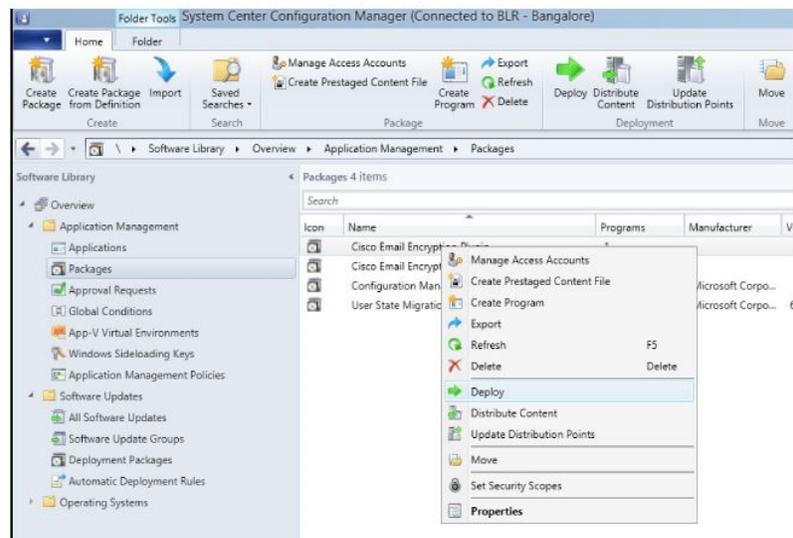


ステップ 22 [Next] をクリックします。

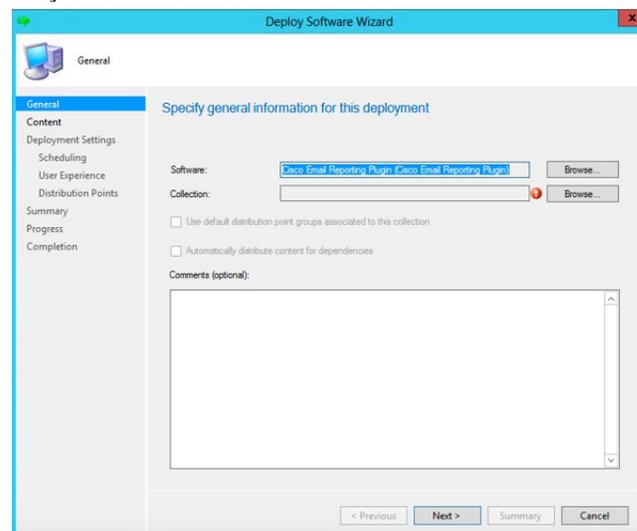
ステップ 23 [Next] をクリックし、[Create Program Wizard] が正常に完了したら [Close] をクリックします。



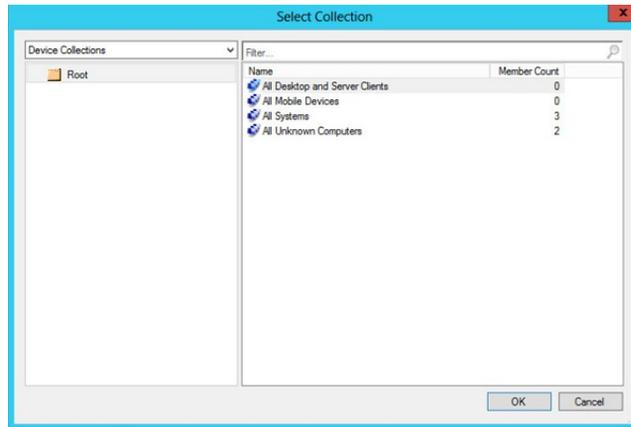
ステップ 24 System Center Configuration Manager で、作成したパッケージを右クリックし、[Deploy] をクリックします。



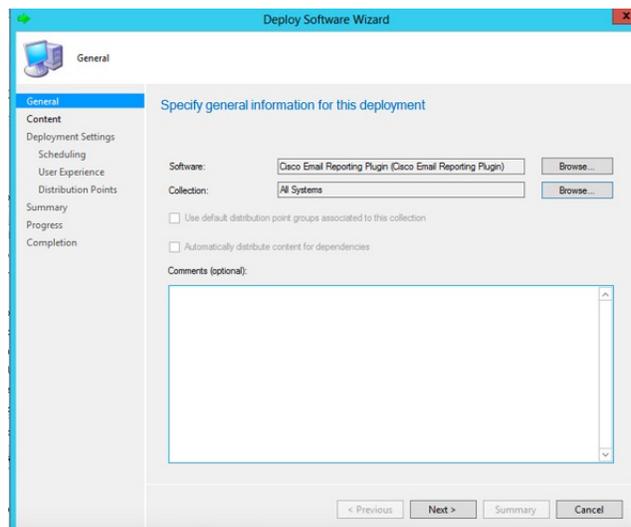
[Deploy Software Wizard] ウィンドウが表示されます。



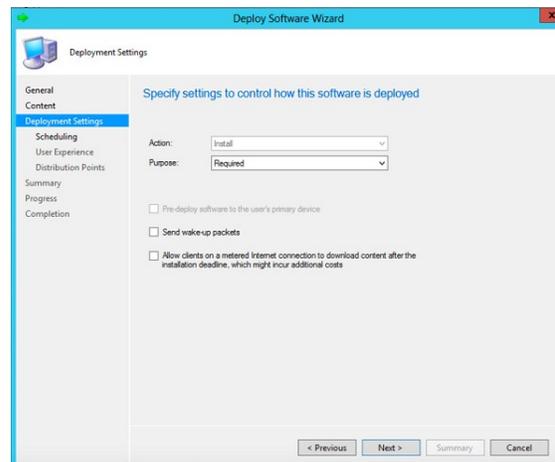
ステップ 25 [Collection] の横にある [Browse] をクリックします。



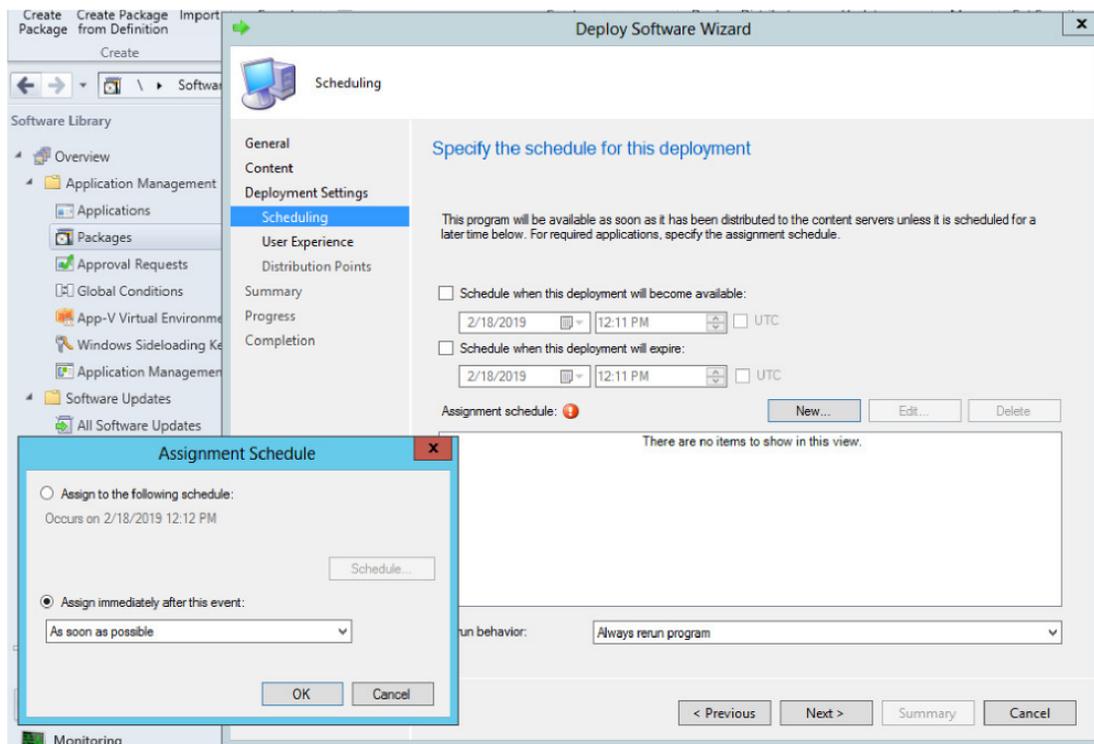
ステップ 26 表示された [Start Collection] ポップアップで、プラグインをインストールするクライアントのグループが含まれている必要なデバイスのコレクションを選択し、[OK] をクリックします。



ステップ 27 [Next] をクリックします。



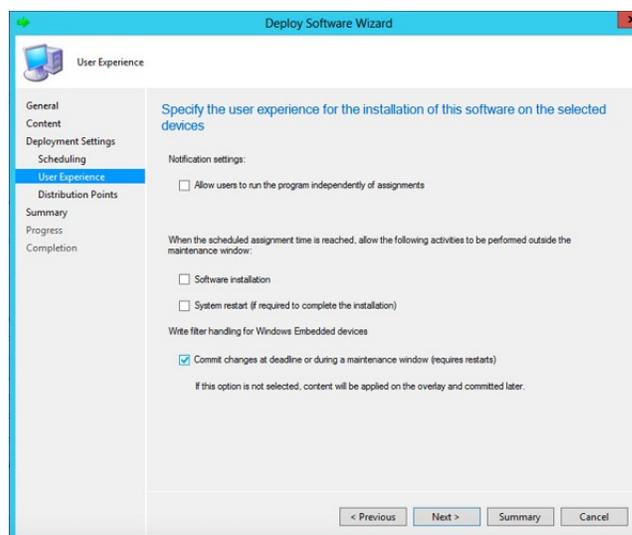
ステップ 28 [Next] をクリックします。



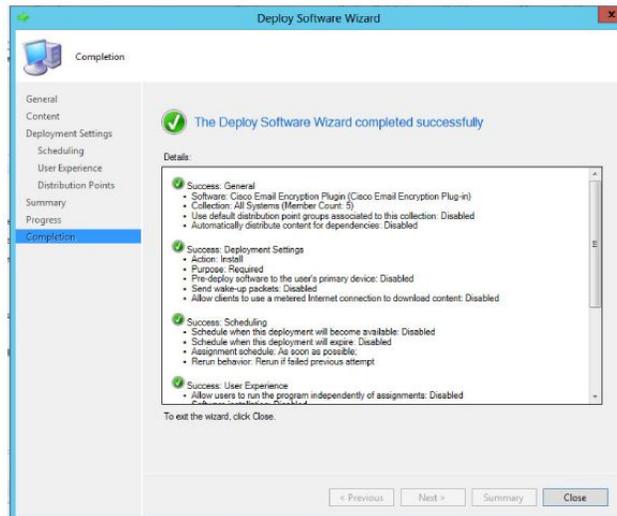
ステップ 29 [Scheduling] ページで [New] をクリックして、新しい割り当てスケジュールを作成します。

ステップ 30 [Assign immediately after this event] を選択し、ドロップダウンリストから [As soon as possible] を選択して [OK] をクリックします。

ステップ 31 [Next] をクリックします。



ステップ 32 [Deploy Software Wizard] が正常に完了したら [Next] をクリックし、[Deploy Software Wizard] をクリックします。



ステップ 33 [Deployment Status] を参照して、プロセスが正常に完了したことを確認します。

カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用

Cisco Secure Email Encryption Plug-in では、インストールに含まれている一連の XML ファイルを編集することで、デフォルトの設定を変更できます。別のコンフィギュレーションファイルを使用して、インストールの設定を変更することもできます。たとえば、`config_1.xml` コンフィギュレーションファイルでファイルにフラグを付ける方法など、いくつかの暗号化オプションを変更できます（この変更は、暗号化アプライアンスでもこの方法を変更できる場合に限り行います）。ボタン名をカスタマイズしたり、さらに、ユーザーインターフェイスで使用されるテキストをローカライズすることもできます。

概要

カスタム コンフィギュレーション ファイルを変更して展開するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Encryption Plug-In\` ディレクトリのコピーを作成します。Common フォルダを含める必要があります。

(注) 妥当性を保つために、元のファイルのディレクトリ構造を維持する必要があります。**Cisco Email Encryption Plug-in** ディレクトリから始まる構造が維持され、構成ファイルとともにすべてのファイルが含まれていることを確認します。

- ステップ2** XML コンフィギュレーション ファイルを編集します。新しいファイルを作成する代わりに、インストールファイルに含まれている XML ファイルを変更することをお勧めします。これらのファイルの変更方法については、[XML コンフィギュレーション ファイルの編集 \(21 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ3** [インストールの前提条件 \(1 ページ\)](#) の説明に従って一括インストールを実行し、[カスタム コンフィギュレーションファイルの展開 \(23 ページ\)](#) の説明に従ってカスタマイズした XML ファイルを展開します。

XML コンフィギュレーション ファイルの編集

Cisco Secure Email Encryption Plug-in をインストールすると、構成データが作成されて XML ファイルに保存されます。文字列型の値を編集して、パラメータ値をカスタマイズすることができます。ただし、値を削除することや、ファイルの構造を変更することはお勧めしません。

デフォルトでは、プラグインによって、Outlook の次の場所にある `%AllUsersProfile%` ディレクトリにコンフィギュレーションファイルがインストールされます。

```
%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Encryption Plug In
```

XML ファイルは次のデフォルトの場所にあります。

- `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email EncryptionPlug-In\Common\config_1.xml, config_{N}.xml`。この番号はユーザー アカウントの数によって異なります。デスクトップ暗号化プラグインに関連する構成データが含まれています。
- `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email EncryptionPlug-In\Common\CommonComponentsConfig.xml`。ログファイルの場所やローカライゼーションファイルの名前（デフォルトのローカライゼーションファイルは `en.xml`）などの暗号化プラグインに関する基本的な情報が含まれています。電子メールプログラムの設定を使用してログ ファイルの場所を変更し、一括インストールプログラムによってそれを展開できます。使用可能なローカライゼーションファイルとは異なる言語でローカライゼーションファイルを作成する場合は、新しい XML ファイルの名前をここで指定する必要があります。
- `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email EncryptionPlug-In\Common\Localization\en.xml`。ローカル言語に関連するデータが含まれています。デフォルトの言語は英語です。ただし、`de.xml`、`es.xml`、`fr.xml`、`it.xml`、`zh.xml`、`pt.xml`、`ja.xml` など、いくつかのローカライゼーションファイルが使用可能です。これらの xml ファイルの対象外の言語を使用する場合は、カスタム xml ファイルを作成し、そのファイルを `CommonConfig.xml` ファイルで指定できます。



注意 < または > 記号の内側になるなどの文字列 ID も変更しないでください。変更するとプラグインが正しく機能しなくなります。

BCE_Config.xml ファイルによる一括インストール

BCE_Config.xml ファイルを使用して一括インストールするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Encryption Plug-In\Common` ディレクトリに移動します。
- ステップ 2 `config_1.xml` ファイルを削除します（ファイルがある場合）。
- ステップ 3 BCE 構成ファイル（デフォルトでは `BCE_Config_signed.xml`）をこのディレクトリへコピーして、ファイル名を `config_1.xml` に変更します。
- ステップ 4 `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Encryption Plug-In\CommonComponentsConfig.xml` ファイルに移動します。
- ステップ 5 `CommonComponentsConfig.xml` ファイルに次のタグが含まれていることを確認します。

例：

```
<accountFileNames>
  <accountFileName filePath="config_1.xml" emailAddressAndKeyServer="*" />
</accountFileNames>
```

ヒント `accountFileName` タグには `profileName` 属性を含めないでください。属性が含まれている場合は、削除してください。

(注) 特定ドメイン内の選択したユーザーだけを設定するには、そのドメインを電子メールアドレスとして指定するように、`CommonComponentsConfig.xml` ファイルを変更する必要があります。

たとえば、シスコのユーザーだけに BCE コンフィギュレーション ファイルを適用するには、下記を変更します。

```
<accountFileName filePath="config_1.xml" emailAddressAndKeyServer ="*" />
```

が、次のように変わります。

```
<accountFileName filePath="config_1.xml" emailAddressAndKeyServer="@cisco.com" />
```

`accountFileName` タグが複数ある場合、`filePath` は、`config_2.xml`、`config_3.xml` のようになります。

次に例を示します。

```
<accountFileName filePath="config_2.xml" emailAddressAndKeyServer ="@cisco.com" />
```

- ステップ 6 [インストールの前提条件 \(1 ページ\)](#) の説明に従って一括インストールを実行し、[カスタムコンフィギュレーションファイルの展開 \(23 ページ\)](#) の説明に従って、カスタマイズした XML ファイルを展開します。

- (注) `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Encryption Plug-In\Common` ディレクトリの内容を `\\{SHARED_DIR}\{CONFIG_FOLDER}` にコピーする必要があります。また、`{CONFIG_FOLDER}` に `Common` フォルダが存在していなければなりません。`UseCustomConfig` コマンドパラメータを使用すると、変更したカスタム コンフィギュレーション ファイルをインストールで使用できます。

カスタム コンフィギュレーション ファイルの展開

コンフィギュレーションファイルの編集が完了したら、展開時に特殊キーを追加して、変更したカスタム コンフィギュレーション ファイルがインストーラで使用されるようにする必要があります。`UseCustomConfigs` コマンドラインパラメータを使うと、インストールでカスタム コンフィギュレーション ファイルを使用できます。また、このパラメータによって、インストール時に使用するコンフィギュレーションファイルが格納されているフォルダのパスを指定します。

一括インストールで、次のシンタックスを使用してコマンドラインから `UseCustomConfig` キーを追加します ([インストールの前提条件 \(1 ページ\)](#) を参照)。

```
Cisco Email Encryption Plugin.exe /exenoui /qn  
UseCustomConfig="\\{SHARED_DIR}\{CONFIG_FOLDER}
```

=の後ろのパスによって、カスタマイズしたコンフィギュレーションファイルのパスを指定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。